



日々の雑感、相続・遺言、高齢者支援

平塚の波音と湯気の向こうに、5000万ソロの影 ethos / 2026年4月8日

平塚の砂浜に打ち寄せられた流木に腰を下ろし、相模湾から昇る朝日を持つ…。そんな「丁寧暮らし」風のポーズを決めつつも、頭の中では「老後の孤独」と「ラオシャンのタンメン」が交互に押し寄せるのが、令和を生きるアラ還の日常です。今や、若者の二人に一人が独身という「超ソロ社会」。自由を謳歌する一方で、ふとした瞬間に忍び寄る「身寄りなし問題」という名の砂粒のような不安。果たして私たちは、人生の幕引きをスマートにデザインできるのでしょうか。

今回は、平塚の海辺で独り、未来の安心をパッキングする「おひとり様」のための未来戦略について。行政書士の視点から、少しシュールに、かつ実務的に細解いてみたいと思います。

日本人の半分が独身になる時代

私の周囲にも、独身生活を謳歌している方は多くいます。今や、独身研究者という方がいて、その荒川和久氏によると日本人の半分が独身になる時代だそうです。これは、国勢調査などの公的な統計を元に算出・提唱している「超ソロ社会」に関する予測データが有力な出所です。

独身にも二種類あって、自らすすんで独身の「選択的未婚者」とそうでない「本意未婚者」がいるそうです。前者は約20%で残り後は後者だそうです。彼は「結婚しないと不幸」という呪いから脱却せよとも主張していますね。たしかに、平塚の街を歩いても、二人に一人は「ソロ」なのだと思えば、独身の肩身が狭いなどという時代は終わったのかもしれませんが。

かつて七夕祭りの人混みの中で、きらびやかな竹飾りの影に隠れ、カップルたちの熱気に当てられていた日々が懐かしく思い出されます。花水ラオシャンで酸味の効いたタンメンをすする時間こそが、至高のデトックス。澄んだスープに浮かぶ玉ねぎを無心で追いかけていると、煩わしい人間関係など、酢の力で溶けていくような気がいたします。とはいえ、新しく整備され

た「ひらつかシーテラス」を眺めれば、考え方は人それぞれ、そこには賛否両論の波が静かに打ち寄せています。

「自分じまい」の準備はいかに

少子化という大きなうねりはさておき、個人的に気になるのは、自分という存在の「店じまい」の方法です。介護、葬儀、そして遺された家。平塚の心地よい潮風に吹かれながらも、頭の隅をよぎるのは「私の最後の手続き、誰がやってくれるのかしら？」という、非常に現実的な砂粒のような不安でしょう。そこで、私たち行政書士の出番でございます。「身寄りがない」ことは、決して心細いことではありません。むしろ、自分の最期を自分のセンスでプロデュースできる「自由」があるということ。「遺言書」で財産の行き先をスマートに決めたり、「死後事務委任」という契約で、葬儀や片付けをあらかじめプロに託したり。それは、七夕の短冊に願いを書くよりも、ずっと確実におのれの未来を守る儀式なのです。ソロで生きる強さと、事務手続きによる安心感。平塚の海のように、穏やかで淀みのない余生をデザインするお手伝いができればと思っています。

法的な備えで安心の旅路を

太陽は、リア充にもソロにも平等に昇ります。ひらつかシーテラスを黄金色に染める朝焼けを眺めながら、私は確信しました。独身という名の自由な海を漂うには、コンパスとなる「備え」が必要なのだと。ラオシャンのタンメンが朝の胃袋に染み渡るように、法的な準備があなたの未来に安心を届けます。

「私の一生、これでいいのかしら？」という、形のない不安の雲が朝日に溶けていくまで。平塚の海辺で、あなたの声を静かにお待ちしております。

この記事はブログからの転載です。
QRコードをスマートフォンで読み取ると簡単にアクセスできます。

<https://ethos-trust.com/blog/>



Ethos Legal Office

あなたの人生の大切な場面を支える「柱」になります
行政書士イトス法務事務所

代表 伊藤 洋一

〒254-0821 平塚市黒部丘17-35

直通電話：0463-32-7257

メール：itoh@ethos-trust.com

